

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかな改善がみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

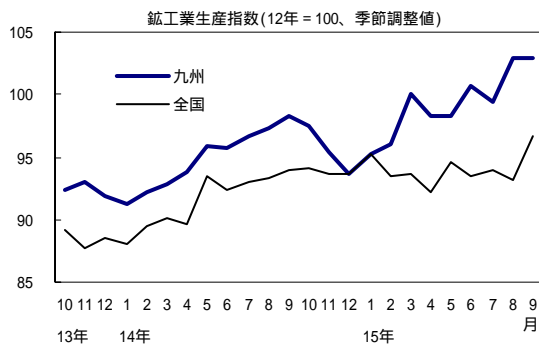
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
景況判断	持ち直しの動きが続いている	緩やかな改善がみられる	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、自動車向けICやデジタルカメラ向けのCCD等が好調であることから増加した。輸送機械は、自動車の北米向け輸出が好調なことや他地域の工場から生産移管された車種があったことから増加した。一般機械は、半導体製造装置等の増加により堅調に推移している。食料品・たばこは、残暑によりビール、発泡酒や清涼飲料が増加したことから全体でも増加した。化学は、医薬品の増加により大幅に増加している。



(備考)平成15年9月の九州は速報値。

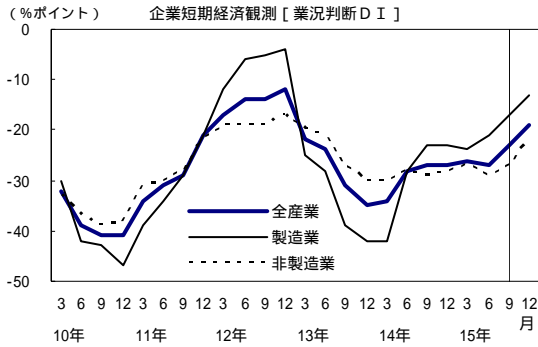
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	14.9	9.1	2.7	2.8	11.0
輸送機械	11.7	6.0	2.3	5.9	20.2
一般機械	11.0	0.4	1.8	3.4	1.7
食料品・たばこ	10.8	2.7	3.4	2.1	16.8
化学	8.5	5.5	8.3	11.4	3.7
鉱工業	100.0	2.1	2.7	2.8	2.0

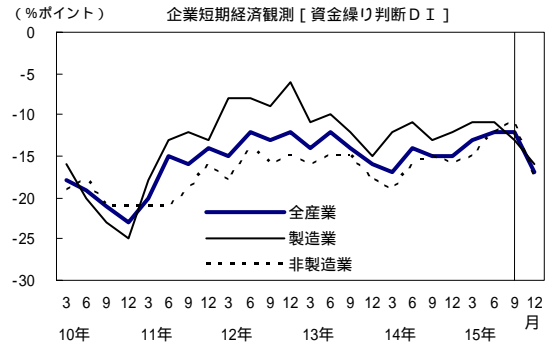
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期は速報値。

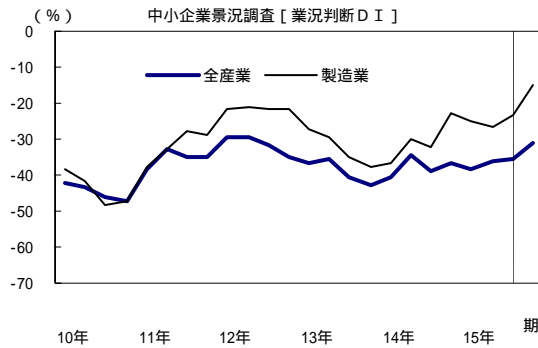
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「原料価格がじりじりと上がってきているが、製品価格も上昇してきているので、足元の収支は安定している (鉄鋼業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

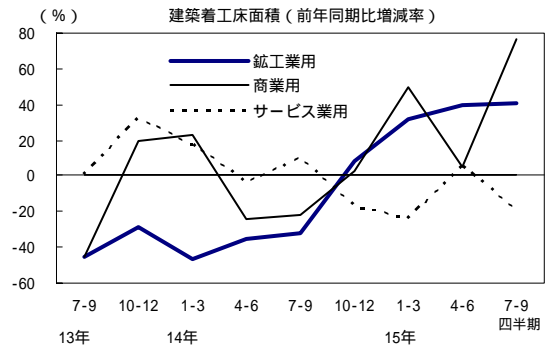
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	11.3	5.5 (2.1)
製造業	2.9	11.3 (2.7)
非製造業	14.5	3.1 (1.8)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

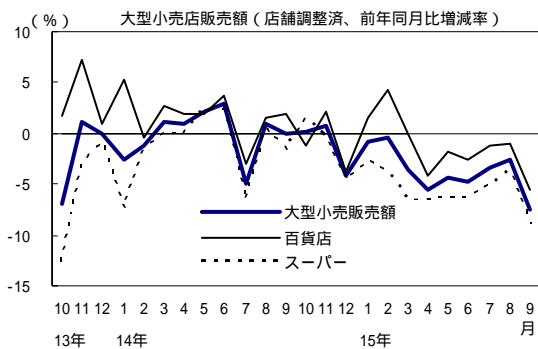
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は長雨の影響で気温が低めに推移したため、衣料品を中心に夏物商品が鈍かったことや、中元ギフトの早期受注の反動減により前年を下回った。8月は気温が低めに推移したことにより夏物衣料の動きが鈍く、前年を下回った。9月は残暑の影響で秋物衣料の動きが鈍かったことから、前年を下回った。

スーパーは、天候不順による衣料品の不振や、売場面積縮小による家庭用電気機械器具の売上が減少したことから、前年を下回った。なお、全店ベースでは前年を上回っている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

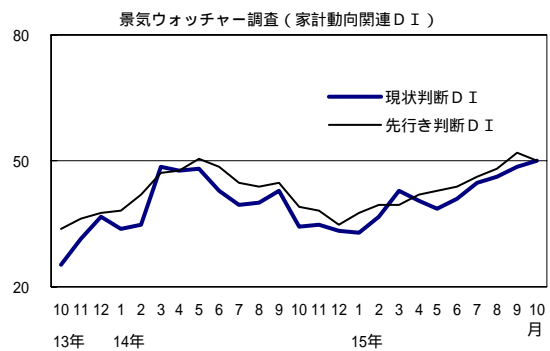
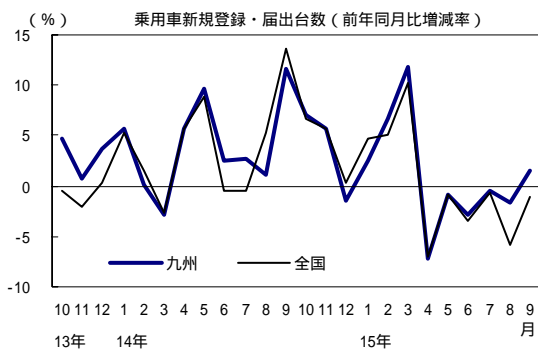
「食料品の場合、うまいもの大会や北海道フェア、産直等の企画をすれば、そこそこ客は来るが、それ以外は厳しい状況である(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.5	1.7	4.9	4.3
百貨店	1.4	1.7	2.8	2.4
スーパー	1.6	4.4	6.4	5.7
乗用車	3.7	7.9	3.6	0.1
景気ウォッチャー	34.3	37.5	40.0	46.5

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。九州・沖縄地区の値。

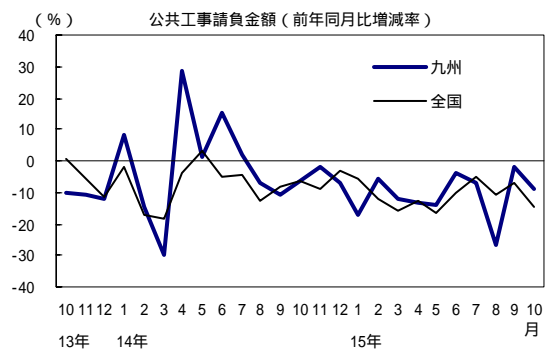
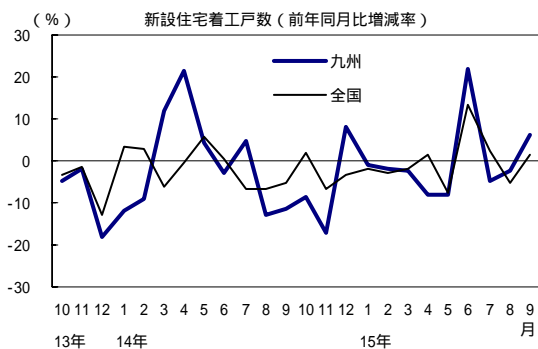
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を下回ったものの、分譲、持家が上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

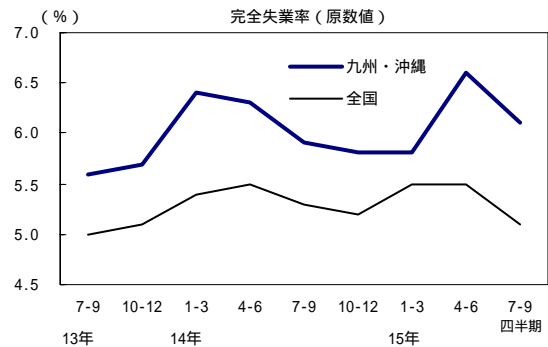
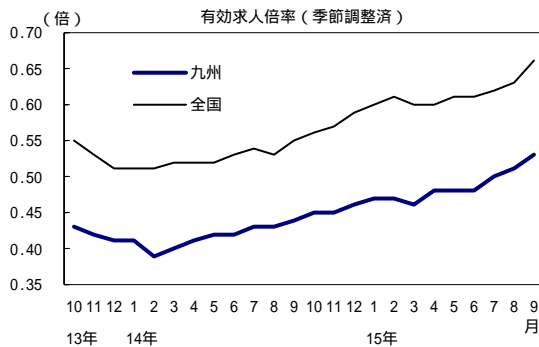


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

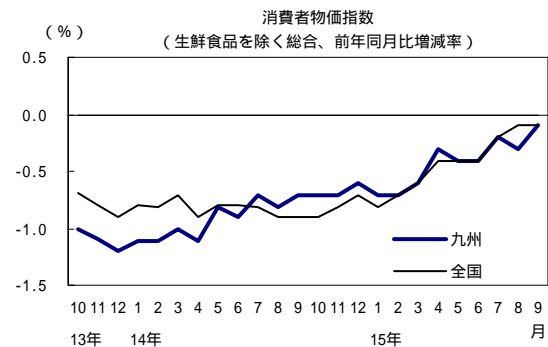
「設備投資が増加した建設業や、デジタルカメラ、半導体生産等が好調な製造業を始め、主要産業からの新規求人数がここ数か月増加している(職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	423	353	375	363	127
(前年比)	19.1	14.1	11.1	9.7	24.4
負債総額	2,821	3,369	1,299	1,821	951
(前年比)	43.0	140.1	59.1	37.3	31.1



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・半導体関連の動きはやや良くなっていると感じられるが、まだまだ不安定であり、確実に上昇という状況にはなっていない。液晶関係においても同じような状況で、確実に上向きとは言えない(電気機械器具製造業)。

<先行き>

・年末に向けて宴会需要が若干増えてきている。まだ眠っている需要の掘り起こしも考えられるので、景気は上向く(一般レストラン)。

